

お鍬山 植物たより (H26. 12. 16)

お鍬山にも多くの野鳥が飛来します。コツコツと木を突くのは、英名「日本にいる小さなキツツキ」のコゲラのようなようです。スズメと大きさはかわらないようですが、枯れた木から虫を取り出すのに夢中なのか手をたたいても逃げもしませんでした。ギーと戸がきしむようなコゲラはまだしも、ピーピー・チッチ・ピロピロと鳴いている野鳥の声々を聴きながらコナラやアベマキ、タカノツメなどの落ち葉を踏みしめながらの散歩は寒さの中でも楽しいものです。その散歩道を邪魔するようにフユイチゴが赤い実をつけています。(花・H26.8.18 掲載)



フユイチゴ (果実)

お鍬山の情景も季節で違いますが、時の経過でも変わってきます。一時期、松枯れ等でなくなってしまい、門松のために捜すのも大変だと云われていたマツですが、お鍬山の遊歩道沿いの各所に幼樹が生えてきました。展望台から猿投山を見ると、目の前に2mほどの松を見る事もできます。数年経つと邪魔して猿投山が展望できなくなるかもしれません。



東・遊歩道

最近、環境省では国内の生態系に被害を及ぼす恐れがある「侵略的外来種」候補の一つとしてキュウイフルーツを選定したそうです。その理由が「適切な管理が必要な産業上重要な種」だからだそうです。果実として必要ではあるが、生態系を乱してもらっては困ると云う事でしょう。そのキュウイフルーツがお鍬山の南側の遊歩道沿いに、何箇所かで自生しています。鳥が運んできたのでしょうか、生態系を乱すほどに繁殖力が凄いいということをお鍬山でも示しているということでしょう。

遊歩道沿いにセンリョウやマンリョウの赤い果実(H25.12.10 掲載)を見る事ができます。ジャノヒゲの濃青色の種子も叢生した線形の葉の間から覗かせています。(花・H26.7.16 掲載)



マツ (展望台から猿投山を見る)



キュウイフルーツ



ジャノヒゲ (種子)